

「福岡県議会における老年層議員のスピーチスタイル」

二階堂 整(福岡女学院大学)

二階堂です。よろしくお願いたします。地方議会を取り上げまして、方言の話をしていこうと思います。(以下、パワーポイント資料を枠内で示していく)

要旨

- ・ 福岡県議会議員の委員会発言に「少し丁寧な方言」というスピーチスタイルがある(ただし本会議は共通語)。
- ・ これは老年層が生み出したスピーチスタイルである。

今日、お話をする一番のポイントは、この二つです。福岡県議会議員の委員会発言に、「少し丁寧な方言」というスピーチスタイルがあるということ、そして、これは老年層が生み出したスピーチスタイルであるという二つをお話ししたいと思います。

現代日本の言語事情

よそゆき ⇒ 共通語 ふだん ⇒ 方言

大きくは、現代の日本語の場合、「よそゆき」のときは共通語を使い、「ふだん」のときは方言を使うという、単純に言えば2段階です。そのような言語生活を送っているかと思います。そのなかで、方言をどのように使うのか、方言をどのように使いこなすかというお話をしていきたいと思います。

今までの一連の発表は、「こんなのは方言だよ」「こんなところにも方言があるよ」というお話が主だったと思いますが、ここでは方言をどのように使いこなすかというお話です。皆さんは、多くの方が方言を話すわけですが、その方言を意図的に、どのように使いこなすかということです。例えば、豊橋市に、誰か歌手がコンサートに来たときに、合間のMCのときに、ちょっと方言を使うということがあります。そうしますと盛り上がり、親密な関係ができたりします。あるいは、海外の方が来て、愛知の方言を使ったりしますと、「おっ!」と思って、急に距離が縮まったりし

ます。これは意図的に方言を、大げさに言えば、武器として方言を使っているということです。

方言を意図的に使用する例

青森県議会議員発言（環境生活部長に対し）

それから、原子力。原子力安全対策課，環境生活部長，ガラス固化体は電力会社のものである。当たり前だじゃあな。おらの聞き方が悪かったんだべね。それだったら，事業者のものであるというのは電事連なのか，（中略），返す宛先を個々に把握しているのかということでもあります。

これは意図的に方言を使っている例です。青森県議会の委員会での発言です。いろいろと原子力安全対策課，環境生活部長に問うわけです。「ガラス固化体は電力会社のものである」と，ずっと共通語で話します。そして，二重下線のついているところですが，「当たり前だじゃあな。おらの聞き方が悪かったんだべね」と言います。ずっと共通語で話してきて，ここだけ方言の話し方をするわけです。続いて，「それだったら，事業者のものであるというのは電事連なのか」と戻っていくわけです。ずっと共通語で話していて，ここだけ方言がひょこっと顔を出して，また共通語に戻っていきます。これは策略として使っていると思われるわけです。こう聞いておいて，わざわざ，このような言い方をします。聞かれるほうとしては，あまりうれしい気持ちにはならないと思います。これは意図的に方言を使っています。これが一つの例です。

これからは，方言を使いこなしているといえますか，ある意味で，意図的に戦略的に使っている例を話していきます。

地方議会会議録 ネット公開（2010年調査）

都道府県議会は100%，市・区議会は95%以上。多数自治体で全文検索システムを導入（年度・発言者・キーワード検索など）。

議会中継録画のネット配信も増加。

まず前段として，議会の話をしていくことにします。地方議会は，「会議録」がネット上で公開されています。9割以上で「議事録」がネット上に公開されて検索す

ることができます。自由に誰でも見るができるわけです。

地方議会の議員発言は方言資料。

会議録では、基本的に発言通りに文字化。方言もそのまま文字化。

地方議会議員の 87.6%が現在居住する都道府県で生まれ育つ。

これが方言資料として使えるわけです。なぜならば、「会議録」は基本的に発言したとおりに書かれていますから、先ほどの松田先生のお話のように、方言が出現するということがあるわけです。

国会と比べますと、地方議会の特色としては、ほとんどの方がその土地の出身の方ですから、その土地で生まれ育った人が使っている地元の方言が顔を出すということが、資料として価値があることになるわけです。

実際に、豊橋市も、このようにホームページがあります。

豊橋市議会HP

<http://www.city.toyohashi.lg.jp/gikai/>

会議録検索

<http://www.kaigiroku.net/kensaku/toyohashi/toyohashi.html>

そして、会議録は検索できるようになっています。議員名で入れることもできます。「奨学金」や「原子力」など、何か話題のキーワードを入れて調べることもできるようになっています。

豊橋市議会 気づかない方言

A 議員の発言 (H2 1.8 B 委員会)

他市と比べることは現在やってみえないかもしれませんよね。

他市と比べることは現在やっておられないかもしれませんよね (共通語訳)。

ちょっと豊橋の例を一つだけ……。私は九州の人間ですから、これでいいのかどうか分かりませんが、下線のところです。「現在やってみえないかもしれませんよね」と、「みえない」というのは、おそらく敬語として使っていると思います。そして、正しいかどうか分かりませんが、共通語訳としては、「現在やっておられないかもしれませんよね」と。もしかしたら、これは「気づかない方言」と言って

もいいかもしれませんが、このようなものが出てくる可能性があります。

せっかく豊橋市に来ているのですが、今日は、あえて福岡の例を使うことにします。

まずは、議会の仕組みを押さえておきたいと思います。国会と同じように、本会議の前に委員会があります。委員会で議論して、それが上にいき、本会議で審議されるわけです。基本的には、全国どこでも本会議と委員会では共通語を話します。方言丸出しで、どんどん発言している人はあまりいないわけです。

全国の県議会では、一般に、本会議・委員会ともに議員は共通語で発言することが多い。

しかし、方言も出現することがある（当選回数や選挙区は無関係）。

1. 本会議よりも委員会で方言が出やすい。
2. 冒頭発言よりも2回目以降の発言で方言が出やすい。
3. 方言をよく使用する議員は60代以上の男性に限られていた。

しかし、方言に注目してみると、上の三つになります。本会議よりも委員会で方言が出やすいようです。これは全国的な傾向です。それから、2番目として、冒頭発言よりも2回目以降の発言で方言が出やすいようです。これは議員の場合を言っているわけですが、1回目の発言は、代表質問みたいなものになるわけです。そうしますと、書いてあるものがあって、それを読むことになりますので、そこには方言は出にくいわけです。1回目の代表質問がありまして、行政側が回答します。それに対して第2の質問などがありますので、2回目以降の質問では、どうしてもアドリブでやるところがありますので、いわゆる話し言葉が出やすくなりますから、2回目以降で方言が出やすいという傾向があります。

それから、方言をよく使用する議員は、おおよその傾向として、60代以上の男性に限られるということが言えます。ただ、これは議会の特性で、どうしても男性が圧倒的に多いことがあります。そして、20代の議員は、福岡でもいませんから、どうしてもこのような傾向になるということがあります。

取り上げるのは委員会の発言です。委員会があって、本会議があるわけですが、

先ほどの国会の話にもありましたように、委員会は小さな部屋でおこないます。ところが、本会議は、堂々とした会場がありまして、だいたいどこでも発言者がいて、後ろに高い段があって議長がいるというような立派な会場です。ずいぶん会場の雰囲気も違います。本会議は、どこでもテレビで中継されたり、ケーブルテレビで流されたりすることがありますが、委員会では、そういうことはありません。ですから、委員会と本会議では質的にだいぶ違うわけです。

本会議では、60代以上の男性議員でも共通語で話すわけです。ところが、委員会になりますと、特に60代以上の福岡県議会の委員会の発言のなかに、方言が顔をのぞかせるわけです。

福岡県議会会議録

電子データ公開 本会議：平成7年5月以降 委員会：平成12年4月以降
 検索システム ことば・発言者・会議の種類・会議の期間で検索可
 映像 平成23年以降の本会議

データとしては、このようなかたちです。本会議は平成7年から、そして、委員会は平成12年から公開されています。いろいろなシステムがありまして、検索ができるようになっていて、映像も公開されています。これらを用いてやっていきます。

＜福岡老年層議員のスピーチスタイルの使い分け＞

場面	本会議	委員会	友人との会話
言語	共通語	少し丁寧な方言	普段の方言
意識	よそゆき	ややよそゆき	ふだん

まず、今日のテーマのところですか。ここがポイントです。本会議の場合は、言葉としては、どの議員も共通語で話します。意識としては、よそゆきのことだと思っています。福岡の場合は特にそうですが、おそらく60代の議員は方言や地元意識が強いので、普段のときは普段の方言を話していると思われます。

場面の中間にあたるのが委員会の発言です。60代以上の議員の発言ですが、少し丁寧な方言を話します。方言が出てくるわけですが、こちらの普段の方言の話し方とはちょっと違うわけです。これについては、おそらく、普段とよそゆきの中間にあたるという位置づけを考えています。意識もそういうものであると思われる。

スピーチスタイルの使い分け

福岡県議会議員70歳以上7名中4名（2014年度）

少し丁寧な方言

本文中に方言が頻出し、文末を共通語の敬語で結ぶ。

（丁寧語「です」「ます」・尊敬語「れる」「られる」）

具体的には、ここに出しましたが、福岡県議会では2014年度に、70歳以上の議員が7名いました。そのうちの4名が、少し丁寧な方言を使うわけです。

どのようなものかと言いますと、発言中に方言が出てきます。文末が、共通語の敬語を使いますが、限られていまして、丁寧語の「です・ます」、それから尊敬語の「れる・られる」というかたちで結んでいきます。

ですから、方言で話していて、文末だけ「です・ます」にしたり、「れる・られる」にしたりします。ここで言う少し丁寧な方言とは、このようなものです。これが型として決まっていまして、「このような型で使う」となっているわけです。それが議員に共通していて、しかも必ず委員会だけに出てきます。年配の男性議員だけに出てくるところが、非常に面白いところです。

YT議員の発言（厚生労働環境委員会 2009年12月14日）

だから、就職も本気になってさせるごとせにゃ、ならんもんが悪いとやないかなと思いますけどね。（中略）ここで教育の話したたっちゃしょうがないけどすね。

（二重下線：方言 波線：共通語の敬語）

具体的に見ていこうと思います。まず、YT議員の発言の委員会の例です。二重下線が方言です。そして、文末に出てくる波線のところが共通語です。ここで言う方言とは、福岡の方言もちろんですが、大ざっぱに広く西日本方言も含んでいます。

本文中の話している途中では、方言がポロポロ出てきますが、最後だけは敬語で縮めています。敬語の縮め方が「です・ます」「れる・られる」となっています。このような型が決まっているということです。

YT 議員の発言再質問（メモを読み上げていない）（平成 7 年 6 月本議会 1995 年 6 月 26 日）

そこで、これは現在のところ、私個人の考えで、何らオーソライズされたものではありませんが、当面効果が大きくかつ着手しやすいもの、例えば（中略）などの考え方も必要であると思っているところでありますが、そこで、これらの点を含め事業実現に向け知事の並み並みならぬ決意のほどをお聞きしたいと思います。

次に、同じ YT 議員の発言が、委員会ではなく本会議ではどうなるかといいますと、このようなかたちになります。これは 1 回目に質問をして、次の 2 回目の質問ですから、何かを読み上げているわけではありません。これを見ますと、先ほどの委員会の話と全く違うわけです。

「これは現在のところ、私個人の考えで、何らオーソライズされたものではありませんが、当面効果が大きくかつ着手しやすいもの……」と、同じ人がこのように話し方をしているわけです。

先ほどの資料（YT 議員 厚生労働委員会発言）に戻ります。この人が委員会で発言するときは、先の例の話し方をします。

ところが、本会議になりますと、このような話し方（YT 議員再質問）になります。ですから、完全に使い分けをしています。切り替えているわけです。この議員は共通語も使えますし、方言も使えるわけです。委員会で方言を使うときには、先のように方言を使いながら、文末だけ「です」「ます」というかたちで結ぶわけです。

I S 議員の発言（平成 26 年度予算特別委員会 2014 年 3 月 24 日）

頑張ったってできんと、どげんするのと。本当ですばい。それけん、一番大事なのは、それならもうなくなるよと言ったらどうだろうと思います。なくなるとよかろうと。今のようなら、県も金かけて校舎を立派につくったり、人を置いたりしませんよと。しかしやっておるから、何とかせないかんと。

同じような例ですが、これは IS 議員の委員会での発言です。二重下線のところで。「頑張ったってできんと、どげんするのと。本当ですばい。それけん、一番大事なのは、それならもうなくなるよと言ったらどうだろうと思います。」という、方言を使いつつ、文末は波線の共通語の敬語で結ぶという形でやっているわけです。

IS 議員の発言 (2012 年 12 月本会議 再質問)

一つは、これ二つとも森林関係ですけれども、森林環境税をずっと農林事務所単位で調べてみました。(中略) ずっと突き詰めていきますと、森林組合の体制ができていないところが、今まで国の補助やらもらってしてなかったものですから荒廃になっておる、そういったところは。

同じ人が本会議になりますと、「一つは、これは二つとも森林関係ですけれども…」と、このような共通語の話し方をしているわけです。

とにかく話し方が全く違うわけです。われわれは、きちんとしたときには共通語を話し、友達とは方言を話すというように切り替えをするわけです。この人たちも、ある種の切り替えをしているわけです。委員会のときには、方言を交えながら、文末は「です・ます」「れる・られる」で結び、本会議になりますと、がらりと話し方を変えて、このような堅い共通語による話し方をします。

TH 議員 (81 歳) の発言 (2001 年 12 月 厚生環境委員会)

そうせんと、またまた。議事進行。確かに大事な議論があつておると思います。ただしですね、何回か同じようなことでね、答弁にもよるとでしょうけれどもね、お昼前に聞いたことと同じような質問もあつておるから、その辺ちょっと整理してやってください。

少し同じような例を見ていきたいと思います。これからは委員会の例だけ出します。TH 議員です。二重下線と波線のところでは。このように方言と共通語が混じっています。

IK議員（76歳）の発言（2013年12月 建築都市委員会）

私の聞き間違いかもしれんですけども、委員会に傍聴したというあれがちょっと出たですね。あれは、うちのところに傍聴はしてないですもんね。福岡市議会の傍聴をされたものか、その辺ちょっと確認しとかんと、何か無視されたような形になりますので。

それから、もう一つIK議員の発言です。「あれがちょっと出たですね」と、今、これを読むと、変な感じになると思います。「ちょっと出たですね」というのは、書き言葉であれば出てこない言葉です。話し言葉にしても、ちょっと不自然なところがあると思います。これは先ほど言いましたように、方言で話しながら、文末だけ、ある意味、機械的に「です・ます」「れる・られる」と置き換えています。それが出ているところだと思います。「ちょっと出たですね」と、そこだけ置き換えようということですよ。

今、四つの例を出しましたが、議員の70代のうちの4名ですから、70代のあと3名は、委員会も本会議も共通語で話すわけですが、70代の半分くらいが上記のようなスタイルを使うわけですよ。委員会用の話し方と本会議用の話し方が、全く違うわけですよ。面白いのは、委員会と本会議がきちんと使い分けられていることです。なおかつ、委員会のときの言葉の使い方が、みんな同じで型が決まっているわけですよ。方言で話すのですが、全て方言で話すわけではなく、最後だけは、「です・ます」「れる・られる」となるわけですよ。

例えば、外国語のものまねをしたりするときに、文末だけを外国語っぽく置き換えて、それらしく聞こえるということをやります。また、今日の前半のお話にもありましたが、ドラマの方言のように、最後だけ「～ばい」「～たい」をつけると、いかにも福岡の言葉らしく聞こえるというのがありました。太田先生の発表のなかにも、置き換えるときに人称や文末だけ方言にするという話がありました。やり方としては、同じことをやっているわけですよ。ですから、最後だけを、「です・ます」に置き換えるのは、かたちはいろいろありますが、考え方や方法はドラマの方言などと同じだと思います。ドラマで、最後だけ「～ばい・～たい」と方言を出して、福

岡方言らしく聞こえるようにすることと同じなわけです。

佐賀県議員 60代以上議員18名中3名

高知県議員 60代以上議員21名中2名

に、このスタイルが出現（ただし、本会議にも一部出現）。

今までは福岡方言の例でしたが、他にも佐賀や高知で同じようなものがあります。特に九州あたりでは、方言がよく出ることがあります。九州のあちこちの年配の議員などは、方言がちょこちょこ出ますが、特に方言がたくさん出るのは、九州の佐賀県や四国の高知県です。

ただ、福岡との違いは、委員会と本会議で明確に使い分けがあるわけではないのです。高知も佐賀も、本会議にも方言が出てきます。福岡と同じことは、佐賀も高知も、先ほどと同じようなスタイルをとります。年配議員が方言で話して、文末だけ「です・ます」でまとめていくというものです。時間があれば、最後に具体例をお話ししたいと思います。

福岡の少し丁寧な方言が出現する例

- ・地元土産物店で老年層の地元店員が観光客と話す場合
- ・地元の老年層話者が観光客に道案内する場面

福岡の議員の委員会のような話しぶりは、他の場面でも、おそらく出てくると思います。例えば、福岡の地元の土産物店で、年配の店員さんが観光客と話す場合です。どうしても方言が基調になりますが、相手がよそから来た人ですから、丁寧に話そうとすると、「です・ます」をつけることになります。

それから、地元の老年層が観光客に道案内をするときも、やはり丁寧に話そうと思いますから、方言が基調になるんですが、何とか丁寧にとって「です・ます」がつきます。

具体的に見ていきます。これは実際に調査した例です。駅までの簡単な道のりの地図を渡して、この地図を参考にしながら、駅までの道のを説明してもらうという調査を全国でやりました。福岡の例を示します。

一つは、よく知った友達に聞かれた場合、もう一つは、見知らぬ東京の人に聞かれた場合です。

福岡の道教え

例 地図を見ながら、見知らぬ人に駅までの道のりを説明する

銀行の前ば行かれて、えー、郵便局の前その先ずーっと行きよりましたら交番がありますけん、交番を右に曲がられたら、真っ正面に駅があります。

例 友人に説明

郵便局があるーが。そこを前を通りよったら、交番があるけん、交番の先ば右へ曲がりゃ駅たい。すぐわかる。

上は見知らぬ人に説明する場合です。「銀行の前ば行かれて」と、「れる・られる」が出てきます。「郵便局の前その先ずーっと行きよりましたら」と、「ます」が出てきます。「交番がありますけん、交番を右に曲がられたら、真っ正面に駅があります」ということで、「れる・られる」「ます」が出てきます。

同じことを友人に説明するとなると、「郵便局があるーが。そこの前を通りよったら、交番があるけん。交番の先を右に曲がりゃ、駅たい」という形になります。

ですから、議会だけではなく、このような話法やスタイルが、福岡で日常的に用いられると考えられるわけです。おそらく、使っているのは年配の人が中心でしょうが、年配の人は、どうしても方言がベースですから、ふだんは方言で話します。しかし、敬意を示さないと悪いということになりますと、具体的には敬語を使わないといけません。使いやすい敬語となりますと、「です・ます」「れる・られる」となります。それを文末につけます。とにかく、方言で話していても、末尾にだけつけてしまうわけです。ドラマで共通語で話して、福岡方言らしく聞かせるために、文末だけ「～ばい・～たい」をつけるのとは逆バージョンです。方言で話しているけれども、共通語らしく聞かせて敬意を示すために、文末だけ「です・ます」をつけるというものです。

非常に大事なことは、これは老年層があみ出した形だということです。言葉は変化していきます。言葉に限らず、変化をするときは、若い人が作り出し、変化を与えることが多いわけです。しかし、方言を話しながら、文末を「です・ます」に置き換えるスタイルは、若い人ではなく年配の人が作り出したものです。

「年配の人は、あまり言葉を生み出したり、変化させることはない」と一般的には言われますが、そうではなく、このことにおいては、年配の人が新しく作り出した言葉の形であるを見たいわけです。それが注目すべきところです。

老年層		若年層	
ふだん	方言	ふだん	方言
よそゆき (中間)	文中 文末 方言+共通語敬語 (少し丁寧な言い方)	よそゆき	共通語
よそゆき	共通語		

なぜかと言いますと、この図式にあるところです。普段は方言を話します。よそゆきのときは、共通語(標準語)です。ややよそゆきのときに、文中は方言を使い、文末は「れる・られる」「です・ます」を使います。

逆に、若い人は、二つしかありません。普段は方言を使い、よそゆきは共通語を使います。年配の人のほうが、3段階という非常に新しいものを生み出したかたちになっているわけです。

「少し丁寧な方言」スタイル誕生の事情 委員会 中間のバランスを保つ

よそゆき	中間	ふだん		使用要素	相手との距離
本会議	委員会	友人との会話	よそゆき部分	共通語敬語	保つ
			ふだん部分	方言	縮める

先ほどの話を、もう一度、整理したものです。中間的なものが、委員会にあたります。よそゆきが本会議にあたります。なぜ、そのようなことをしているかと言いますと、委員会のことを考えるとき、「ふだん」と「よそゆき」の中間、本会議と友人との会話の中間にあたるのが委員会ですから、どちらとも言えません。どちらとも言えないとなりますと、どうするのでしょうか。よそゆきの要素は共通語であり、普段のところは方言なわけです。

考えてみますと、委員会は本会議よりくだけた場です。とはいえ行政側と、ある意味で、交渉したり、戦ったりする場です。そうしますと、距離の取り方として、よそゆきの面がありますから、そこは共通語で表します。それが距離を取ることであるわけですが、それだけでは交渉できないとか、相手を説得できません。そうするためには、距離をつめなければいけません。距離をつめるときに、どうするかと言いますと、手段として方言を使うということがあるのではないかと思います。

行政側の回答が十分でない場合や、行政側を追求する時、方言だけになり、共通語の敬語は消える。以下は福岡県議会委員会の議員発言例。

国の概算要求が出とるのに、なんで県の責任者は出てこんとな。あんた、言うこと要らんよ。今、連れてきない、あんた。当たり前の話やるうもん。

それはわかっとうたい。具体的に言ってみなさい。十五土木事務所あるやらう。どういうふうな形で、だれがその評価の資料をつくってきて、本庁に上げるとね。

次に、議員も「方言を使うときは使うよ」という例を示したいと思います。ここには共通語敬語はありません。二重下線ばかりです。これは行政側を追求している場合です。行政側がちゃんとした回答をしないために、感情が高ぶったり、怒ったりすると、方言が丸出しになったりします。一応、最初は方言と共通語を混ぜたスタイルで発言するのですが、いよいよ怒ってきますと、相手にどんどんと言わなければなりませんから、言うためにはどうするのか、批判するためにはどうするのか。言い方は悪いですが、せめるためにはどうするかといいますと、言葉としては、共通語を使わずに、方言丸出しで言っています。その例です。言われる側のことを考えればわかりますが、このように言われますと、とてもつらいと思います。ですか

ら、作戦としてやっているということが言えるのではないかと思います。

佐賀県議会の例

佐賀は 60 代以上の 18 名の議員中、男性議員 3 名が少し丁寧な方言に該当する。

委員会で方言が頻出し、文末に共通語の敬語がでる。

また本会議の冒頭においてさえ、方言が出る点が特色である。

まだ時間があるので、先ほどお話ししました佐賀と高知の例を見ていきたいと思えます。まずは佐賀の例です。60 代以上の 18 名の議員のなかで、3 名が少し丁寧な方言で話しています。つまり委員会で、方言が頻出し、文末が共通語敬語になっています。特に、福岡との違いは本会議の冒頭、つまり、普段であれば紙に書いてあるものを読み上げるかたちですが、そのようなところにも方言が出ます。この場合は、「です・ます」で結ぶものですが、そのようなかたちが出ます。委員会には限らないということです。

IM 議員（66 歳）の発言 （2014 年 3 月総合交通対策特別委員会）

後で本じゃい何じゃい読みいしゃい、おもしろかですよ。そして、こいばずっと読んでいきよぎんね、我田引水という言葉は知っとうわけですね、だいでん知っと。読んでいきよぎんね、今度は「我田引鉄」て書いてあるわけですね。そいぎん、こいばずっと読んでいきよったぎんですよ、おもしろいことに気づいたわけですね。

まずは委員会の例です。波線が共通語の敬語「です」と結んでいます。また、二重下線のたくさん方言が出てくることがわかると思います。たくさん出てきますが、文末のところは「です」と結んでいるわけです。

MY 議員（71 歳）の発言 （2012 年 10 月原子力安全対策等特別委員会）

それはあなたたち知らんだろうから、後ろの方に聞いてから言ってください。いやいや、よかけん。そがんかとは一回聞いてください。何のため、そけ座っとるね。聞かんね。聞いとらん。ちょっと委員長、もう少し丁寧に聞かんね。何ちゅうもんね。片手間のやり方で何でそこに座っとるね、あんたたちは。何のため、補助員として座っとるかい。もう少しね、丁寧に協議をして答えなさいよ。

それから、これは MY 議員です。これも委員会の例です。福岡のものよりも二重下線の方言がたくさん出てくることがわかんと思います。文末のところは、「ください」というかたちで結んでいきます。

MY 議員（71 歳）の発言（2005 年 6 月 本会議 冒頭）

あなたの名前ですよ、どがん思うですか。危ないけん補修ばまずしましょうとか、どがんだろうかという話し合いがされるならよかとばってん、いきなり撤去。魚市場ばつぶすつもりですか、あんたは。そういうことで、あんた、よかて思うとると、大体。その辺は僕は質問しませんけどね、ひとつそういうことがあっているということだけは、知事は頭ん中に入れとってください。

次は本会議の例です。本会議の冒頭のところです。先ほどよりも、やや二重下線の方言が少しは減ったという様子です。一方で、先ほどよりも波線の共通語敬語が多いのがわかんと思います。「あなたの名前ですよ、どがん思うですか」と、知事に詰め寄っているところです。本会議の冒頭発言にもかかわらず方言が出てきます。

しかし、スタイルとしては、方言を使いながら、文末のところが敬語で結ばれています。それは、福岡の例と変わりません。

IH 議員（64 歳）の発言（2008 年 12 月 県土整備常任委員会）

それは責任とってもらわんば。いや本当ですよ。六角川と嘉瀬川ばどがんすつですか。松浦川はどっちかというぎかたかとけんですね、地盤が。松浦川はそれはよかと思うですよ、失礼かばってん。0 委員に失礼かばってん。六角川と嘉瀬川は、これはほんなごてよう考えて権限移譲をせんというと、大変。そがしこは言うときます。

これも同じです。二重下線の方言がたくさん出てくるのはわかんと思いますが、文末は必ず「です」「ます」で結んでいます。

高知県議会の例

高知では 60 代以上の議員 21 名中、男性議員 2 名が少し丁寧な方言に該当する。

本会議では基本的に共通語だが、委員会で、方言が頻出する。

さらに、委員会では、共通語の敬語も出現するが、やや数も少なく、福岡・佐賀県

議会のように、「デス」が多用されない。代わりに文末が「ネ」「ヨ」で終わっている。それが特色となっている。

次に、高知の例を見ていきたいと思います。これも 60 代以上の議員 21 名中 2 名に、少し丁寧な方言が出てくるわけです。高知の場合は、福岡や佐賀ほど機械的に文末を「です」で結ぶということはありません。どちらかと言いますと、方言色が非常に強いです。特に、文末が「ネ」「ヨ」で終わる例が出てきます。先ほどよりも、型があまり守られないということです。

SN 議員（74 歳）の発言（2014 年 3 月 危機管理文化厚生委員会）

知事も講演には行かれるけんども、そういうことを考え、頭に置いてやっていかないと、建物だけつくって、ベッドだけ整備してよ、お医者さんはいないということでは、これは困ったもんじゃなあと実際は思うね。それと、医療センターだってそうでしょう。これは精神病院のほうじゃけんどもね。（中略）その辺が僕はちょっとどうしゅうのかなあとと思うわけよ。

これは委員会の例です。二重下線と波線のところを見ていただきたいと思います。例えば、違いはどのようなところに出てくるかと言いますと、最後の文です。「どうしゅうのかなあとと思うわけよ」というかたちで、ここでは方言が出ますが、「わけよ」の「よ」と、これは方言と思われるわけですが、委員会の場において、相手に聞いているわけですが、「思うわけよ」と、普通、このように言われますと、ドキッとするわけです。方言的な使い方で、このようなことが出てきているかと思えます。

SN 議員（74 歳）の発言（2013 年 9 月 本会議 再質問）

このままいったら恐らく 4 年先も 10 年先もなかなか全国の 46 位へも上がれないんじやなかろうかという懸念を持って聞かしていただいたわけですが、高速道路時代を迎えておりますので、（中略）産業振興計画とあわせて力を入れて取り組んでいくべきじゃないか。

次は本会議の例です。これは方言があまりありません。「なかろうか」というところくらいが二重下線の方言です。比較的、「です」「ます」というかたちで結んでいます。ただ、最後のところで、「取り組んでいくべきじゃないか」というようなかた

ちで終わっています。

ME 議員（63 歳）の発言（2014 年 3 月 商工農林水産委員会）

（前略）その物すごいおいしいって言うがやけども，売ろうとしちゅうのかと思うて，ずうっとその中でキーワードとして消費と販売と外商と販路と稼ぐと，この5種類を調べてみたらね，農業分野一個もないがですよ。（中略）これ成功してもらいたいと思いますが，そこのところのちょっと心意気というか，腹づもりをちょっとだけ聞きたいね。

今度は委員会の例です。これもかなり方言が出てきています。「です・ます」で結んでいるところもありますが，最後の文のところでは，「腹づもりをちょっとだけ聞きたいね」と，「ね」というような言い方が出てきます。これは先ほどの佐賀や福岡と少し違うところです。必ずしも「です・ます」で結んでしまわないというところ

です。

このように，60 代以上の議員の幾人かは方言を意図的に使いこなしていると思います。委員会の場では，あえて，あのような言い方（方言を使いつつ，文末は共通語敬語）をすることによって，相手との距離を取りつつ，逆の意味で詰めるかたちで，本会議とは違ったかたちで交渉として，あのような言葉を使っているのではないかと思います。

少し時間前ですが，これで終わることにします。どうもありがとうございました。

(質疑応答)

○司会 はい、ありがとうございました。このあと、全体の質疑応答もありますが、その前に、まず個別に二階堂先生にご質問があれば、この場で伺いたいと思います。いかがでしょうか。

○男性 A 全く、こういうところがないかという、単純に興味で教えていただきたいのですが……。例えば、15枚目の資料の「です」の使い方を見たときに、「しようがないけどですね」みたいな、あり得ない語順で「です」が出てきています。

あと、その前の表現、それだけに限らず、他の「です」の使い方を見ましても、いわゆる、文末のあとの文末詞という捉え方もできそうですし、間投助詞的に、いわゆるポピュラーな意味合いもなく、添えているだけのような感じがするのですが、そういうものに該当する方言形と言いますか、その土地における代替形式はあるのでしょうか。

○二階堂 これがというのは、すぐに出てきませんが、普段に話す言い方を、何かに置き換えているところは、確かだと思います。方言で言いましたら、全く別の系統になるもので置き換えるかと言われますと、ちょっと厳しいですが……。

福岡でも「ばい」「たい」はよく出ますが、これが「ばい」「たい」の置き換えかといえますと、ちょっとそれは無理があると思います。

ですから、逆に「ね」とか「よ」が、そのまま残ったと考えられるかと思います。正確な答えではなくて、すいません。

○男性 A ありがとうございます。ちょっと思ったのが、要するに、丁寧体で表現しようと思うと、もう標準語形というか、共通語形しか、選択の余地がなかったとしたら、もともと本会議のほうでは、いわゆる共通語ベースの表現をすることは、通常にできる人たちであるとしたら、あと方言形を入れようとしたら、その部分以外しか入らないという順番で……。つまり、文末や繋ぎのところなど、そういうよどみの部分は、そもそも丁寧体をもった共通語形しかなかった結果が、このスタイルにたどり着いたのかなという気もしたのですが、そういう理解ではまずいでしょうか。

○二階堂　そういうこともあると思いますが、もう一つ、考えておかないといけないと思います。この人たちは、共通語も使えるけれども、普段は方言を使いこなしていると思います。このようなことを生み出した時代的な背景や変遷があると思います。共通語が入ってくる前であれば、この人たちは方言敬語を使っていると思います。ですから、実際に、お友達と話すときには、今の福岡でもそうですが、「～しんしゃ」「～しんしゃい」と言った敬語を使います。それが、もし自由に使えていたとしたら、今の文末のところは、おそらく方言敬語を使うような場面でもあるわけです。それが使えないということは、一つ考えておかないといけません。

ですから、方言敬語が使えないからどうするかといいますと、同じ敬語の共通語の「です・ます」「れる・られる」を使うというのが一つです。

そして、やはり、ここで、なぜこれを使うのかという目的を考えたときに、委員会で特別な言い方として、相手と交渉をしたいという言い方として、方言的要素が出てきますし、相手と距離をつめようと思ったら、「よ」「ね」が出てきます。そのことも考えておかないといけないとは思いますが。

(終了)